

## 平成30年度県立美術館協議会会議録

### 1 日時

平成30年8月29日（水） 午後1時30分から午後3時30分まで

### 2 場所

県立美術館3階会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

川越良一 恵利修二（途中退席） 六車順子 二宮勝憲  
藺田潤子 石川千佳子 原田正俊 吉村博子 計8名  
（欠席 添田佳伸、谷口由美繪）

#### (2) 県教育庁生涯学習課

森山課長補佐 黒木社会教育主事

#### (3) 県立美術館

飛田館長 加塩副館長 島根総務課長 木村学芸課長  
横山副主幹 佐々木副主幹 清主幹  
大野主査（発言記録等） 菊池主査（写真撮影）

### 4 傍聴者及び取材者

傍聴者 なし

取材者 宮崎日日新聞社生活文化部 記者 杉田亨一

### 5 会議の内容

#### (1) 開会

#### (2) 館長あいさつ

#### (3) 委員紹介

#### (4) 職員紹介

#### (5) 日程等説明

#### (6) 会長及び副会長の選出について

#### (7) 議事

① 平成29年度事業実施結果及び平成30年度事業実施計画・状況について

② 宮崎県立美術館運営ビジョンに基づく評価について

#### (8) 協議、意見交換等

#### (9) 閉会

## 6 概要

### (1) 会長及び副会長の選出について

会長に川越委員、副会長に二宮委員が選出された。

### (2) 議事

県立美術館協議会規則に基づき、会長が議長となり議事を進行した。

はじめに事務局説明として、議題①について、総務課長が総務部門、学芸課長が学芸部門について資料に基づき説明を行った。その後、議題②について、加塩副館長が美術館運営状況評価についての説明を行い、外部評価を実施した。

事務局、加塩副館長の説明後、議長が各委員に質問や意見等を求めたところ、各議題について以下の発言があり、事務局から説明や回答を行った。

## 【29年度事業実施結果及び30年度事業実施計画・状況】

### ○ 石川委員

シュルレアリスムの作品を中心に収蔵作品が充実している。その分、調査研究の取り組みが望まれる。先ほどの館長の話にもあったが、先が見えない現代では、想像力とそれに基づく判断力を高めるには美術鑑賞が一番効果があるといわれている。そのようなことから欧米ではビジネスパーソンがアートスクールに行く傾向も生まれ、大人をターゲットにした美術鑑賞の取り組みも求められる。

#### →木村学芸課長

子どもたちにそのような鑑賞の場を設けるだけでなく、忙しい大人にも関心を持ってもらいたい。今後の課題としてとらえ、ビジネスパーソンが、関心を持てるような取り組みを工夫したい。

### ○ 恵利委員

ジブリの入場者が、コレクション展等の入場者を増やしている。美術のコアなファン向けから一般向けの幅広い層を対象とした展覧会の開催や様々なイベントも戦略的に実施されており、このような取り組みをこれからも続けてもらいたい。また学校では道徳が教科となっている。美しいものを美しいと感じる心を育てる場に美術館になってほしい。本年度、プロパーの学芸員を募集しているが、今後、調査研究を進める点で大きな一歩になっている。

### ○ 藪田委員

昔、画家やイラストレーターを夢見た中高年の方で本格的に学びたい方が、多くいる。年間を通して理論や、技能を学べるような場を提供できないか。また、美術館で名画を見つづけると腰が痛くなってしまうので、座って居心地のよい場所があるとよい。

### ○ 原田委員

県立美術館は、開館当時にイタリア彫刻を多く収集しているが、現在の扱いはどのような状況か。

#### →木村学芸課長

国内作家の彫刻作品も収集は行っている。イタリア彫刻は、かつて隆盛を誇っていたが一時衰退し、20世紀初頭に勢いを取り戻している。当時のメダルド・ロッソの作品など50点以上の現代イタリア彫刻作品を収蔵しており、現在はパブリックゾーンや彫刻展示室等を中心に展示している。

## 【運営ビジョン評価】

- (1) 収集・保存 . . . A で承認
- (2) 調査研究 . . . B で承認
- (3) 展示 . . . 概ね達成しているが B で承認
- (4) 教育普及 . . . A すべてクリアしている。
- (5) 広報・発信 . . . A で承認
- (6) 連携・参画 . . . B で承認
- (7) 人材育成 . . . A で承認 研修は8割実施し、博物館実習も受け入れている。
- (8) 施設・管理 . . . B で承認

○ 加塩副館長

今回示した年度間目標の数値は原則変更しない。ただし、予算の都合等で目標数値を変更する必要がある場合は、この会議で報告、協議していただく。

○ 原田委員

環境調査とは、どのようなことをおこなっているのか。

→木村学芸課長

業者に頼んで年に2回行っている。トラップによる害虫菌モニタリングや空中浮遊菌測定である。

○ 石川委員

調査研究について研究紀要の出版があげられているが、図録も入っているとより妥当な業績評価になる。また、職員のマンパワーが足りない。これだけのコレクションの質と量があれば多くのプロパーが必要である。例えば県立でも富山県美術館は、12名の学芸員がいて基本的にプロパーである。調査研究等は、プロパーが長年にわたり取り組まないと難しい。

→飛田館長

職員の資質の向上は、在職している職員の質を高める事、また専門職性の高いプロパーを採用することが考えられる。職員の任用は、県立美術館では決められないが、館として資質向上のためにできることを努力したい。

○ 二宮委員

以前、坂本繁二郎のエスキースの寄贈希望を美術館に打診したが、収集委員会で審議されなかった。

私のまわりの人たちもほぼ本物に間違いはないという意見だった。審議をしてほしかった。また、県美展では使用しているのに、70回展を迎える宮日美展で彫刻展示室の借用が認められない。何とか規約改正するなどできないか。館外と館内の意見の違いを知ってほしい。

→木村学芸課長

宮日美展も貸館として他の利用者と平等に扱いたい気持ちがある。現状では、コレクション展示室の一般貸出はできない。また、坂本繁二郎のエスキースについては永久保存という観点から慎重さが必要である。エスキースがもとになった作品を収蔵する北九州市立美術館の学芸員にも問い合わせたが、結果として難しかった。

→飛田館長

要望のすべてはかなえられないとしても、できる範囲で努力をさせていただきたい。

○ 原田委員

特別展の評価については、予算などで特別展の質は変わるので人数等の数値では比較できない。

都城市立美術館は、人数よりもアンケートの結果で考えている。また、収集も油絵と版画作品では、点の重みが、違うのではないかと思う。子供向けの「たんけんミュージアム」

から「たのしむ美術館」になって、一般の方に向けた取り組みがされているので、評価したい。

→飛田館長

本日は、貴重な御提言、ありがとうございました。